



書道家
武田双龍



先月の「イカす人・綺麗な人」珠玉の言葉
鳥越俊太郎

×



第四十筆

何せうぞ くすんで 一期は夢よ ただ狂へ

意味は「どうするんだ、地味に暮らして。人生は夢みたいなもんだよ。だから好きことに、ただ向かいなさい」ということ。「閑吟集(かんぎんしゅう：室町時代の日本の歌謡集)」の一節です。お酒でもいいし、本でもいい。人それぞれです。場合によっては女でも、男でもいい。人生はあっという間に過ぎてしまうから、なんかくすぶって、ああでもないこうでもない、そんなことやっている暇はない、自分の好きなことを一直線でやるべきなんです。

武田双龍

その一画とは、二度と出会うことはありません。瞬間を大切にしていくことが、理想への第一歩だと思います。

昭和五十九年熊本県生まれ。三歳より書を学び始め、母・武田双葉に師事。書道家・武田双雲は実兄。書道教室 ふたばの街を開講。テレビや新聞、雑誌など幅広いメディアで活動中。
<http://so-ryu.com/>